

平成30年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属中・高等学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価	
学校運営	学校運営	中期目標【広域にわたる 教員研修の拠点校として、 広く西日本各地の教育力の 向上に貢献する。】	①中等教育に係る研究 組織体として、研究組織 と校務分掌組織との連携 性を確認、強化して、研 究と運営の運動性を図 る。 ②業務効率化、労働時間 適正化を図り、チーム学 校としての運営体制を構 築する。 ③学校経費の節約と戦略 的な執行を行う。	①学校経営上の各事業 をPDCAサイクルの可視 化をもって遂行する。広 島県教育委員会との連携 事業も進める。 ②運営委員会を中心に、 業務効率化等の課題共 有と解決に努める。 ③施設・設備の改修等 による教育環境改善、校長 裁量経費活用等による教 育研究をすすめる。	①各分掌、学年、教科にお いて 具体的行動計画を設定し、取 り組みをすすめた。また、SSH プログラム、現場体験、キャリア 教育などの実施にあたり、大学 やアカシア会に様々な形での協 力を得た。 ②将来構想委員会、運営委員 会を中心に課題の共有、解決に 向けた取り組みを協議した。 ③2号館の改修による大規模な 教育環境改善をすすめた。	A	①地域と連携してニーズに応 える教育研究が進んでいる。 ②教員の労働時間管理、在 校時間削減にはかなりの困難 点があるが、業務効率化によ って改善が徐々に進められて いる。 ③改修に関連する諸経費の確 保を中心に課題の共有、解決 に向けた取り組みにより費用 を工面して改修をすすめた。	A	①教育研究と学校運営の連 動、地域との連携について一 層の強化を図る。 ②学校行事の精選および変 形労働時間制の効果的な運 用により、労働時間の適正 化とともに職員意識改革に 努める。 ③老朽化した校舎、体育館 において安全に安心して学 校生活を送ることができる よう見回り点検に努める。
	人事	中期目標【広域にわたる 教員研修の拠点校として、 広く西日本各地の教育力の 向上に貢献する。】	①教員研修プログラムを 策定して交流人事や教員 研修の機能を高め、教師 教育の拠点形成を目指す。	①公立学校からの現職教 員長期研修受け入れおよ び人事交流によって、教 員研修を推進する。本校 教員も海外等での研修に 参加する。	①西日本の教員研修拠点 としての機能を十分に発 揮できるような連携を強 化。新たに尾道学園尾 道中学校・高等学校との 交流協定を結んだ。広島 県教育委員会との連携も 強化し、学校の中核とな る教員の育成、長期研修 (4名)を受け入れている。	A	①校内外での研修、私立 学校との連携、公立学校 教員受入による研修は十 分に行われ、評価できる。 適度な人事交流は有効 であるが、学校運営に無 理が生じている現状も見 られ、学校がぎりぎりの 努力をしている。	A	①適正な人事については、 大学への要望を継続する。
	広報	中期目標【広域にわたる 教員研修の拠点校として、 広く西日本各地の教育力の 向上に貢献する。】	①ホームページやパン フレット等を利用して本 校の教育・研究活動の 広報を行う。	①教育・研究の掲載内 容を増やしてホームペ ージを改善する。学校 案内、学校要覧等の年 度更新に加えて、学校 刊行物を公開し、広報 資料の充実を図る。	①学校刊行物を公開し、 広報資料の充実を図 った。授業実践事例集 電子ジャーナルを刊 行し、教育実践の成果 を発信した。学校訪問 が増加し、外部からも 評価を得ている。	A	①ホームページに教育 研究大会の授業記録、 研究紀要、SSH報告書、 SSH通信や附中新聞 などが掲載されるよう になり、教育研究等の 広報充実が進められて いる。	A	①アップロードする学 校刊行物を可能な範囲 でさらに増やし、ホーム ページを活用した学 校紹介や研究成果公開 を一層推進する。
	PTA等の諸組織との連携	中期目標【広域にわたる 教員研修の拠点校として、 広く西日本各地の教育力の 向上に貢献する。】	①PTAと緊密に連携し、 教育環境の充実を図 る。 ②教育後援会との緊密 な連携により教育環 境の改善を図る。	①PTAやPTA連合会 行事に協力し、保護者 と教員の研修を深め る。 ②教育後援会役員会 に出席して教育環 境の充実に関する協 議と予算執行を進 める。	①中国地区附属学校 PTA連合会の大会主 管校として協力して 開催し、今日的な 教育課題について 研修を深めた。 ②教育後援会役員 会に出席し、協 議の上、予算執行 を行っている。班 室の更新、LL教 室の教育環境整備 を行った。	A	①通常の事業にお ける研修に加えて、 中附P連、全附P 連との連携を強 化し、中国地区 大会を盛況の うちに終えた。 ②本校教育環 境改善に資する 教育後援会 予算執行が適 正に行われた。	A	①PTAと学校との 連携を一層強 化して、保護 者と教員との 研修を深め る。 ②教育後援 会との協 議を定期的 に行い、教 育環境の 改善をは かることが できるよ う支援を 受ける。
教育活動	学習指導	中期計画【グローバル 人材に求められる資質・ 能力を育成する教育課 程及びその評価方法を 開発する。】	①学習活動を充実させ、 目標の達成度を適切に 評価し、学習指導研究 などを展開する。 ②グローバル化に対応 した教育推進を通して 学力向上を図り、資 質育成と進路実現を支 援する。	①教科指導を充実させ、 課外指導も実施して学 力を向上させる。 ②大学や地域、アカシ ア会の協力を得て、学 部訪問、職場体験や キャリア講座を充実 させる。	①充実した学習指導 を行い、生徒・保護者 からの評価は高い。 ②大学、産学連携、地 域、アカシア会の協 力により、現場体験 学習、キャリア講座を 充実させ、生徒の キャリア意識を向上 させた。	A	①SSHの成果を生か して課題研究の対 象者を学年全体に 広げ、従来型に加 えて新たな学力 観のもとでの学 力向上が図られ た。 ②キャリア教育に ついて、大学や アカシア会等の 協力が年々強 化され、充実が 見られる。	A	①課題研究の推進 などによって、 一層の学力向上 を図るなど教科 指導を充実させ る。 ②大学、地域、 アカシア会等 から一層の協 力を受け、グ ローバル人材 に求められる 資質・能力の 育成を進める。
	生徒指導	中期目標【広域にわたる 教員研修の拠点校として、 広く西日本各地の教育力の 向上に貢献する。】	①自由・自主・自律を 校風として生徒の自 覚を高め、生徒会活 動の充実を図る。 ②生徒会活動、生徒 指導を通じて、社 会的ルール遵守や 規範意識を促す。	①生徒が主体的に活 動する学校行事・ 生徒会行事を支 援する。 ②生徒会組織を活 用し、外部機関 にも協力を求め て生活指導を推 進する。	①文化祭、体育祭 等の学校行事は、 準備期間の見直し、 生徒主体の企画運 営を支援した。 ②「正しく理解する SNS」など外部 機関による研修 会を実施し、規 範意識を向上 させた。	A	①生徒の主体性を 尊重して充実 を図り、安全等 の諸条件も考 慮した行事の 見直しを進 めた。 ②社会的なル ール遵守、規 範意識向上の 指導を行 った。	A	①生徒会活動を 推進し、自由・ 自主・自律の 精神について の自覚を高 める。生徒 会行事につ いて、不断 の見直しを 続けなが ら運営を支 援する。 ②PTAとも 協力し、生 徒会組織 を活用して の規範意 識を向上 させる 生徒指導 を継続す る。

注)  太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。

平成 30 年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属中・高等学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価	
教育活動	保健指導	中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】	①チーム学校として、課題を抱える生徒を支援し、生徒の健全な人間観を育成する。 ②清掃活動を充実させ、校内美化の向上と美化意識の高揚を図る。	①学校医やカウンセラー、外部専門機関との連携を強化した生徒相談を充実させる。 ②生徒会組織を活用した保健指導・美化活動を推進する。	①生徒の状況把握に努め、スクールカウンセラーによる助言を受けながら対応した。3学期からはスクールカウンセラーとの連携をさらに強化し、2名に増員。相談日を1ヶ月に2回から1週間に2日とし、充実を図っている。②保健委員会活動の中で清掃・ゴミ処理に関する意識向上をすすめている。	B	①早期発見、早期対応のための組織作りが必須である。昨今の情勢から考えると、スクールカウンセラーの常駐の必要性がある。 ②生徒会組織の活用により、環境美化活動に取り組んでいる。	C	①スクールカウンセラーや外部機関との連携を一層強化して、組織的な対応により生徒相談を充実させる。②引き続き、生徒会組織を活用して美化意識の高揚を図る。
研究活動	研究開発(スーパーサイエンスハイスクール)	中期計画【グローバル人材に求められる資質・能力を育成する教育課程及びその評価方法を開発する。】	①大学と連携・協力して研究開発(SSH第4期研究課題「社会に開かれた科学技術を先導する人材育成の起点となる科学教育カリキュラムの開発」)を実施する。 ②学校設定教科「SAGAs(探す)」新設。	①大学と協力して高大接続の研究を進め、高大ネットワークの構築を目指す。 ②全教科教員が参加し、「課題研究」を中核とした科学教育のカリキュラムモデル、指導・評価モデルを開発する。	①SSH学校設定教科「SAGAs」において全校生徒を対象とした取り組みに拡大した。高大連携・接続では広島大学教員を招聘し、「課題研究高度化プログラム」を実施した。 ②全教科教員が参加し、教科融合型授業、課題研究を実施し、年間指導計画及び教材・評価の具体例を示した。	A	①SSH第4期1年目において高大連携・接続のプログラムの実施に向けて広島大学との連携した体制作りが始まっている。 ②学校設定教科「SAGAs」が学校全体の取り組みとして普及したことは一定の成果がみられる。	A	①高大接続に関して広島大学との連携をさらに強化し、具体的に運用をすすめている。 ②SSH第4期2年目は、学校設定科目を含む新たに構想した教育課程を実施し、研究開発をさらに推進する。
	中等教育研究大会	中期目標【広域にわたる教員研修の拠点校として、広く西日本各地の教育力の向上に貢献する。】	①教育研究大会を開催し、全国の教員に実践研究の成果を提供する。	①次期学習指導要領の主旨にあわせて充実を図る。参加者が活用しやすい資料提供、電子ジャーナル化を行って評価を得るようにする。	①研究大会への全参加者は約500名となった。授業実践の成果が高い評価を得た。また、電子ジャーナルを発刊し、教育実践の成果を広く発信した。	A	①広島県教育委員会との連携した取り組み、「主体的対話的で深い学び」を実現する授業開発の成果が十分であったと評価する。	A	①大学や広島県教育委員会との連携を強化して、次期学習指導要領の主旨に合わせた教育研究大会を開催し、活用される資料の提供をさらに工夫する。
	学部・附属学校共同研究	中期目標【教育研究、教育実習にグローバルな視点を取り入れる。】	①大学と共同で研究プロジェクトに参加し、英語での研究成果発信を進める。	①研究プロジェクトへの応募を推奨し、英語による研究成果発表を推進する。	①平成29年より2年間および英語による成果発表が条件となったプロジェクトでの取り組みをすすめた。昨年度から本校教員が代表者となっているプロジェクト2件は、年度末に英文での報告書が掲載される。	A	①2年連続のプロジェクト、英文での報告書という高いハードルにも関わらず、よく取り組んだ。	A	①英語による研究発表、報告書は始まったばかりであるが、その成果を効果的に発信する方法について検討し、グローバルマインドを普及させた。
教育実習	教育実習	中期計画【教育実習生に、グローバルマインドを育成する指導法やアクティブ・ラーニングなど新しい学びの方法を修得させる。】	①教育実習生の教科指導力、授業力を育成するとともに、適切に評価し、指導の改善を図る。	①教科指導を中心に実習の充実を図り、アクティブ・ラーニングなど新しい学びの指導方法も習得させ、高い達成感が得られるようにする。	①教育実習生の99%が教科指導の実習に満足と回答し、高い達成感のある実習が行われている。数学と理科では、英文での指導案の作成も指導し、グローバルマインドの育成を図った。	A	①教育実習生の指導力を向上させ、満足度が高い。しかしながら、中学生や高校生にも教育実習がより良い影響を与えるようになることが望まれる。	A	①教科指導力の向上を目指して、より一層の教育実習の在り方を検討する。
グローバル化対応	グローバル教育推進 ユネスコ教育	中期計画【グローバル人材に求められる資質・能力を育成する教育課程及びその評価方法を開発する。】	①ユネスコ・スクールに係る教育活動を軸に、グローバル化に対応した教育の思想及び構造を策定する。 ②SSH、ESDが担う意義を明らかにし、グローバルな展開を構想する。	①生徒のユネスコ活動等を支援し、グローバル・コンピテンシーの育成を推進する。 ②海外の交流協定校とESDの視点に立つグローバル交流事業を継続して実施する。	①ユネスコ教育活動、国連のSDGsを主題にした総合的な学習、グローバル教育を推進した。 ②新たにテーマを設定し、海外研修への参加者においてはSDGsの研修会を開き、グローバル人材育成に取り組んだ。	A	①SAGAsのGである国際性の取り組みは進められていると評価する。 ②海外研修プログラムを見直し、SDGsの視点を取り入れた。事前研修会を実施などプログラム開発を始めている。	A	①ユネスコ委員会やユネスコ班、個人での活動も引き続き支援し、ユネスコ・スクールとしての学校での研究実践も行う。 ②グローバル・コンピテンシーの育成を進めるため、従来から実施の事業を見直しながら海外交流プロジェクトも計画する。
	国際交流	中期目標【教育研究、教育実習にグローバルな視点を取り入れる。】	①教職員、生徒の海外研修、海外学校との交流事業を策定し、チーム学校としてグローバルマインドの高揚を図る。	①海外研修プログラムをより改善して実施する。広島県国際課や教育委員会等との連携する。有形文化財である講堂を活用し、海外からの訪問には積極的に応じて交流を図る。	①学校主催の海外研修参加72名のほか、JICAによる「フィリピン研修団」、広島県による「北方四島交流青少年受け入れ事業」、JST「さくらサイエンスプラン(インドの高校生36名)」などを受け入れ、共同授業を行った。	A	①生徒の海外研修参加状況は良好である。また、海外からの多くの訪問に対して、積極的に対応している。グローバルマインドの高揚が図られている。	A	①学校主催の海外研修への参加のほか、他機関が主催する研修の参加への応募も推奨する。海外からの訪日研修では、共同授業を実施するなど交流を積極的にすすめている。

注) □太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。